



平成 28 年度 オリンピック・パラリンピック教育事業
推進校実施報告書

- 1 学校名 : 水俣市立袋小学校
- 2 実施日時 : 2017 (平成 29) 年 2 月 21 日 (火)
- 3 対象 : 1~6 年生児童 197 名
- 4 派遣オリンピック : 勅使川原郁恵さん
(ショートトラックスピードスケート 長野・ソルトレイク・トリノオリンピック出場)

5 授業内容 : 講演・実技指導

2017 年 2 月 21 日に、1998 年の長野オリンピックと 2002 年のソルトレイクオリンピックのショートトラック競技リレーで 4 位に入賞され、現在はスポーツキャスターなどで活躍されている勅使川原郁恵さんを水俣市立袋小学校にお招きし、講演ならびに実技指導を行っていただきました。

講演ではまず、勅使川原さんの子供時代について話をされました。小学校時代は、毎朝約 1 時間のランニングを行ってから登校していたこと。そして、少しでも早くスケートの練習をやりたいから、学校が終わってからも走って家まで帰っていたこと。そのような毎日の努力の積み重ねが実を結び、中学 2 年生のときには全日本選手権で優勝し、高校 1 年生からは 5 連覇を成し遂げたことなどが紹介されました。このような経験を踏まえながら、「努力を積み重ねることによって力がついていきますので、みんながいま頑張っていることをぜひ続けてほしいです」というメッセージを子供たちに送られていました。

また、「ショートトラックでは何キロスピードが出るとおもいますか？」(答えは 100 キロ以下) や「トラックは 1 周何メートルだと思えますか？」(答えは 111 メートル) などと、質問を交えながらショートトラックスピードスケートについて理解を深めたり、「オリンピックは何年に 1 回開催されると思えますか？」などの質問を通して、オリンピックに対する子供たちの関心を高めたりしていきました。

質疑応答では、低学年の児童から「何回転びましたか？」という質問が出され、少し笑いながら「100 回以上かな」(子供たちからは「えー！」と驚きの声上がる…) と答えた後、「でも転ぶことで強くなっていくので、みんなも勇気を持っていろいろなことにチャレンジしてほしいです」と述べられていました。また、特に印象的だったのは、「(ショートトラックスケートをやっていて) 楽しかったことは何ですか？」という質問に対して、「世界大会に出場すると、世界中の人たちと友達になれることです。だから、みんなもチャンスがあれば世界に行ってほしい」というメッセージを送られていました。まさに、オリンピック教育が子供たちの国際理解につながっていくことを実感する瞬間でもありました。

講演後は、ショートトラックスケートの体勢をみんなでチャレンジしてみたり、色々な姿勢でウォーキングをしたりしながら実技指導を楽しみました。

6 授業の様子



子供時代のことを語る勅使川原さん



質疑応答ではたくさんの児童が手を挙げる



実技ではショートトラックの姿勢を紹介



みんなでウォーキングの練習



児童から御礼のあいさつ



全校児童と記念撮影